

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の公表について

平戸市教育委員会

### I 調査の概要

#### 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

#### 2 教科に関する調査

- (1) 調査対象：小学校第6学年の児童及び中学校第3学年の生徒
- (2) 出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則
- (3) 出題内容：「知識」と「活用」の2種類の問題を出題

主として「知識」を問う 国語A、算数A、数学A	主として「活用」を問う 国語B、算数B、数学B
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できているようになっていくことが望ましい知識・技能など	知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容など

#### 3 質問紙調査

- (1) 調査対象：小学校第6学年の児童及び中学校第3学年の生徒
- (2) 調査内容

児童・生徒に関する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

#### 4 調査日

平成28年4月19日（火）

#### 5 平戸市の調査実施校及び児童生徒数

##### (1) 実施校数

小学校 17校                      中学校 9校                      計 26校

##### (2) 参加児童生徒数

小学校6年生                      248人  
中学校3年生                      292人

## II 平戸市の結果の概要

### 1 平均正答率の全国との比較

校 種	小 学 校				中 学 校			
教 科	国 語		算 数		国 語		数 学	
領 域	A	B	A	B	A	B	A	B
結 果					+			

※結果「+」…平戸市の平均正答率が全国平均正答率以上のもの

※領域「A」…主として知識に関する問題 「B」…主として活用に関する問題

#### <結果の総括>

すべての教科において、昨年度より改善がみられる。

小学校国語は、「読むこと」の領域が伸びている。小学校算数は、昨年度より特に大きな伸びがみられる。中学校国語は、全ての領域についてほぼ全国と同等または同等以上の正答率となり、A問題では平成19年度以来、再び全国平均正答率を超えた。中学校数学は、昨年度よりやや改善がみられるものの、依然課題がある。

### 2 各教科別の成果と課題及び改善策

#### 【小学校】

教科・領域	成果 (○) 課題 (●) [設問番号] 改善策 (※)
国語A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字を正しく読むこと (貯金) [1]ー2]</li> <li>○漢字を正しく書くこと (種) [1]二1]</li> <li>○目的に応じて、図と表とを関係付けて読むこと [5]</li> <li>●ローマ字を書くこと、読むこと (りんご、あさって、hyaku) [8]1~3]</li> <li>※第3学年での学習にとどまらず、他教科等でコンピュータを使った学習と関連付けたり、家庭学習での課題や定期的な確認の場を設けたりして、繰り返し読み書きする機会を増やす。</li> <li>●書き手の表現の仕方をよりよくするために助言すること [3]</li> <li>※助言する際の視点の例をいくつかもたせて助言をすることができるように指導する。また、自分の考えを深めたり表現の参考にしたりするなど、読み手の立場から自分の文章を評価することができるように指導する。</li> </ul>
国語B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること [3]二]</li> <li>○目的に応じて複数の本や文章などを選んで読むこと [3]一]</li> <li>●グラフを基に、分かったことを的確に書くこと [2]一]</li> <li>※一つのグラフの全体的な特徴や変化の特徴を捉える学習、複数の図表やグラフを比較したり関係付けたりする学習をとおして、図表やグラフの読み方を理解できるよう指導する。さらに、読み取った情報を相手に分かりやすく伝えるための言葉を選択し、目的に応じて使い分けができるよう指導する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●目的に応じて、質問したいことを整理すること [1]一]</li> <li>※インタビューメモを作成するには、調査等の目的をはっきりさせ、これまでに分かっていることを基にして、質問の具体的な内容や順序などを考えさせる。また、質問に対する答えを予想しておき、相手の答えに応じた質問ができるように指導する。</li> </ul>
算数A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○二つの数の大小関係を表す不等号を書くこと [3] (1)]</li> <li>○繰り下がりのある減法の計算をすること [2] (1)]</li> <li>○乗数が整数である場合の分数の乗法の計算をし、約分すること [2] (4)]</li> <li>●1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解すること [9] (2)]</li> <li>※何が基準量であるのかを的確に捉える場面を設定し、基準量であるものを「1 = 100 %」とみて比較量の割合を捉えることができるようにする。</li> <li>●除数が1より小さいとき、商が被除数より大きくなることを理解すること [1] (1)]</li> <li>※目的に応じて計算の結果の見積もりをする場を適宜位置付け、計算の結果について振り返って判断できるようにする。また、計算の確かめの仕方を理解させる。</li> </ul>
算数B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○示された条件を基にほかの正方形について検討し、同じきまりが成り立つかを調べること [1] (1)]</li> <li>○正方形に内接する円の半径について理解すること [3] (3)]</li> <li>●示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述すること [5] (1)]</li> <li>※図や式などを用いて問題を解決し、児童が互いに図や式の意味を解釈し説明しあう活動を取り入れる。その際、式の意味について過不足なく説明できているかどうかを児童どうしが確認できるようにする。</li> <li>●示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述すること [2] (3)]</li> <li>※立式するだけでなく、友達が考えた式や示された式について、その式の数値はどこから導き出されたものであるのか、その数値に対してどのような演算を行っているのかを考え、説明する場面を適宜設ける。</li> </ul>

【中学校】

教科・領域	成果 (○) と課題 (●) 及び改善策 (※)
国語A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文脈に即して漢字を正しく読むこと (封筒、報われた) [9]二1、[9]二2]</li> <li>○語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと [9]三イ]</li> <li>○相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話すこと [5]一]</li> <li>●題名の下書きをどのように書き直したのかを説明したものとして適切なものを選択すること [9]六]</li> <li>※字形や文字の大きさ、配列などの観点を具体的に示した上で、実際に書き直したものを生徒が互いに評価し合う場面を設ける。</li> <li>●文章を書き直した意図として適切なものを選択すること [9]五]</li> <li>※「書くこと」の学習において、推敲の視点の一つとして取り上げ、文の成分の照応について確認したり、語順を変えることで伝えたい事柄がどのように変わるのかを確かめたりする学習活動を仕組む。</li> </ul>

国語B	<p>○目的に応じて必要な情報を読み取ること [1]二]</p> <p>○文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉えること [1]一]</p> <p>●課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えること [2]三]</p> <p>※情報の収集に当たって、目的にあった情報を探す際の留意点を示し、新聞や雑誌、コンピュータや情報通信ネットワークなどの様々な情報手段、学校図書館などの活用を図る。</p> <p>●目的に応じて必要な情報を読み取ること [3]二]</p> <p>※自分の疑問に照らしてどのような資料が必要なのかを主体的に考えるようにするとともに、他の資料を活用し情報を補うことの大切さを指導する。</p>
数学A	<p>○正の数と負の数の加法の計算をすること [1] (3)]</p> <p>○2つの等号で結ばれている方程式が表す関係を読み取り、2つの二元一次方程式で表すこと [3] (4)]</p> <p>●自然数の意味を理解すること [1] (2)]</p> <p>※数の範囲を正の数と負の数に拡張し、数の集合を捉えなおすことで数についての理解を深める場面を設ける。また、0は整数に含まれるが、自然数には含まれないことを確認する。</p> <p>●反比例のグラフ上の点の座標からxとyの関係を式で表すこと [9] (4)]</p> <p>※反比例のグラフからxとyの座標を読み取り、xとyの値の積が常に一定の値になることを調べ、反比例の式に表されることを確認する場面を設定する。</p>
数学B	<p>○与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、処理すること [1] (1)]</p> <p>●与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明すること [6] (2)]</p> <p>※文字を用いて処理した式を読み取り、問題解決の方法を説明することができるようにするために、処理の手順を数学的に考察する場面を設定する。</p> <p>●加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明すること [2] (2)]</p> <p>※条件を付加する必要があるとき、条件が不足した問題について、ある条件を設定した際の結果を求めたり、ある結果になるために必要な条件を考えたりするなど考察する場面を設定する。</p>

### 3 児童・生徒質問紙による児童・生徒の特徴（全国の割合との比較）

（○：高い状況 ●：低い状況）

#### 【共通】

- 普段（月～金）2時間以上、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯ゲーム、スマートフォンを使ったゲーム含む）やメールをする児童が少ない。
- 昼休みや放課後、学校が休みの日に本を読んだり、借りたりするために学校図書館や地域の図書館に行く。
- 今住んでいる地域の行事に参加している。
- 全ての教科において「調査問題の解答時間が不足している」と答える児童・生徒の割合が高い。
- 家で学校の授業の予習をする児童・生徒の割合が少ない。

### 【児童】

- 地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。
- 5年生までに受けた授業では、ノートに学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている。
- 家の手伝いをよくしている。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている。
- 平日、学校の授業時間以外に30分以上読書をする児童が少ない。
- 学習塾（家庭教師を含む）で勉強する児童が少ない。

### 【生徒】

- 家で学校の宿題をしている。
- 家で学校の授業の復習をしている。
- 「総合的な学習の時間」の授業では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- 1・2年生の時に受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていた。
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある。
- 学校の授業以外に、平日に2時間以上勉強（塾等含む）している生徒の割合が少ない。
- 友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意な生徒の割合が少ない。

## 4 児童・生徒の学習・生活習慣と学力の関係

次の児童・生徒ほど、調査した全教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

### 【共通】

- 予習・復習やテスト勉強など、家での自学自習において、教科書を使いながら学習している
- 算数・数学の勉強が好きである。
- 調査問題（国語・算数・数学）では、最後まで解答を書こうと努力した。

### 【児童】

- 朝食を毎日食べている。
- 地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。
- 友達との約束を守る。
- 5年生までに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていた。
- 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることを難しいと思わない。
- 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している。

### 【生徒】

- 友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である。
- 家で、自分で計画を立てて勉強をする。
- 学級会などの時間に、友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めている。

- 1・2年生のときに受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自ら取り組んでいた。
- 2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていた。
- 2年生のときに受けた授業の中で、目標（めあて・ねらい）が示されていた。

### Ⅲ 平戸市の今後の取組

- 1 各学校の調査結果及び市全体の調査結果の分析による課題の把握  
※全国学力学習状況調査、長崎県学力調査、平戸市学力調査
- 2 各学校で作成する『学力向上プラン』の内容の精査及び実践に対する指導助言
- 3 各種研修会（管理職研修会、教務主任研修会、研究主任研修会、初任者研修会等）における学力向上に関する指導助言
- 4 ICT機器を効果的に活用した授業改善のための研修会の実施  
※大型デジタルテレビ、タブレットPC、電子黒板、実物投影機  
デジタル教科書の活用等
- 5 学力に課題を要する学校に対する支援